

第6回 VTS 勉強会@東京 報告レポート

はじめに

首都圏に在住する VTS の受講生が、ファシリテーターとしての経験を積み、問題点や疑問点を共有するために定期的に勉強会を開催している。ここでは、2012年3月21日に行われた第6回勉強会を報告する。



日時：2012年3月21日（水） 19:00～

会場：アーツ千代田 3331 会議室（東京都千代田区）

参加者：6名

内容：

1. 3作品からなるシークエンスを使った VTS の実践（2名）
2. メンバー全員での振り返り

1. ファシリテーターによる実践記録

[ファシリテーター]

シークエンスのテーマ

水浴

対象

特に定めない

シークエンス

水につかるということの多様な意味を再確認できるような3作品から構成

水浴の楽しさと都市生活の問題など多様な観点で見ることができる作品。

人物が多く物語を作りやすいと考えた。

顔や体を洗う日常の光景を表している作品

人間にとって水浴することの根源的な意味を表す一つの画像

ジョルジュ・スーラ 《アニエールの水浴》

油彩・カンヴァス

15.8×25.1 cm

1883年 シカゴ美術館蔵

メアリー・カサット 《The Bath》
紙、ドライポイント・アクアチント（多色刷版画）
36.8 × 26.3 cm
1890-91年 シカゴ美術館蔵

《ロシア正教会での洗礼》
出典図版
『世界の子供たち：ユニセフ写真集』岩波書店、1992年

[ファシリテーター]

シークエンスのテーマ
植物モチーフが表されたもの
対象
鑑賞体験の豊富な大人
シークエンス

3作品ともに植物モチーフが用いられた作品。
作品1は、その極限的な具象的表現だけでなく、写真そのもののおもしろさ、作品の置かれた状況についての対話が進むことを予想。
作品2、3になるに従って植物モチーフが意匠化され、抽象性が増すので、見立てなどの行為が介在してくることを企図。皿や着物といった既にある形にデザインを落としこんで成立する表現にも注目できるかもしれない。

須田悦弘 《雑草》
2006年
木に彩色
丸亀猪熊弦一郎現代美術館インスタレーション

十三代今泉今右衛門 《色絵かるかや文鉢》
1969年
磁土 / 轆轤成形
h7.2 D42.2cm
東京国立近代美術館蔵

森口華弘 《訪問着 薫秋》
1964年
絹、友禅
161.0 × 130.0cm
東京国立近代美術館蔵

2. 振り返りについて

Step3 のセミナーを受ける直前の勉強会となった。今回は 3 作品で構成されるシークエンスを恣意的に組み立てることの可能性が話題となった。また、これまでの実践経験を踏まえ、たうで美術館における VTS 問題点や活用法などが話し合われた。

振り返りの中で話題となった主なテーマ

期待していた着地点とのズレ

実践者から、三作品を通して表れているモチーフをうまくリンクできなかったという意見が出た。実践者は、鑑賞者の発言を待つだけなので、中立性を保ちながら意図する方向へと誘導するのは難しいということが確認された。ただ、結果的として恣意的に誘導しなかったからこそ、実践者が想定していなかった「画中の人物をみる作者・撮影者の感情や視点」というキーワードで 3 作品がつながっていた部分もある。同じシークエンスでも鑑賞レベルの違いに応じて作品から読み取る意味が異なると考えられるので、その場限りの状況を楽しむためにも恣意的なパラフレーズをする必要はないと考えられる。

シークエンスの構成

期待しているゴールに辿りつくためには、より恣意的に作品選びした上で順序を工夫することも可能である。その中で、一作品目はウォームアップとして自由に発言してもらうために広義な意味を拾い出せる作品を選ぶことがよいのではないかという意見があった。実践中は恣意的なファシリテーションはできないが、その代わりに 3 作品の構成を戦略的に行うことで、期待する着地点へと導くことができるのではないかと話し合った。

美術館と VTS

メンバーが独自で行った実践から、美術館で VTS を使った対話型鑑賞を行う場合には、初対面の参加者同士が話しやすい環境を作るために何かしらのウォームアップ（グループワークなど）を行うことが必要だという報告があった。また、画像を使った VTS で作品をじっくりと鑑賞した後に、展示室へ移動し改めて実物作品と対峙したことが効果的に働いたとする報告もあった。特に、工芸作品を画像で見た場合は、素材や用途の意味合いが緩和されデザイン性を中心にして発言することが多くなるので、実物作品と出会った時の鑑賞者の驚きも大きくなるのだと考えられる。

VTS での言葉づかいについて

作品によっては、「何が起っていますか」という質問がふさわしくない場合がある。そこで、今回の実践では「気になったことなどをみんなでお話ししてみようと思います」というようにアレンジを加えたり、鑑賞者の発言をまとめる際の結句に工夫をしたりしながら、より自然な日本語を模索していることが感じられた。

おわりに

Step2 終了後、メンバーのそれぞれが、この勉強会や独自の現場で実践を行ってきた。VTS の方法を身につけ、それぞれの現場で生かすためにはまだ不安を感じる部分もあるが、来週から始まる Step3 でそれらの疑問が解決できるようになることを期待している。